

平成 30 年度 第三回 宜野湾市市民協働推進審議会 会議録（要旨）

日時：平成 30 年 11 月 19 日（月）午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

場所：宜野湾市役所 三階 建設部会議室

出席：岩田直子委員長、稲垣暁委員、宮道喜一委員、大城周子委員、島袋盛子委員、城間仁委員、新垣真弓委員、森根清昭委員、松本勝利委員

欠席：久米保源委員

開会

委員長 報告 1：前回（第三回）の審議会の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料に沿って説明】

委員長 報告 1：前回（第三回）の審議会の振り返りについての説明が終わりましたが、それについて、何かご質問等があればお伺いしたいと思います。

<質疑応答> 10 分程度

委員 特に議事録の修正はありません。

委員長 議題 1：施策体系図の見直し・集約について、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料に沿って説明】

委員長 議題 1：施策体系図の見直し・集約についての説明が終わりましたが、ご意見などはございますか。

<質疑応答> 10 分程度

委員 今回外されている重点項目は、今の段階では出来ているという事でしょうか。

事務局 今回重点から外れている項目は通常業務として行っているものだと考えております。

委員 右側に「情報収集発信」、「中間支援機能の調査・研究」、「コミュニティ支援」、「その他」という項目が有りますが、四つの柱として示してくのか。連番1から連番29までの施策を再構築するためのキーワードという事でいいですか。

事務局 これまでの審議会の中で、委員の皆さまからご意見がでた、今後重点となる課題項目を3つ出しました。

委員長 昨年度の振り返りで、委員の皆様からご意見がでて、結局集約するとこの3つにまとまりました。あと2年間で、ひとつひとつの課題をやるよりは、3つポイントを絞るほうが効果的で良いのではないかと。

委員 29もある施策の中で、宜野湾市として必要とされている課題が、委員の意見により3つの柱に集約されてきた。

どの業務をどの施策に繋げていけばよいのかが、どこをポイントにしていけばいいのかが分かりやすい。すごくいいまとめ方だと思っている。

後は具体的に業務の部分について、もうすこし掘り下げていくと現実化していくのではないかと。

委員長 ありがとうございます。まずは、重点にするか、どうか決まっていない項目について、ご意見をいただきたい。

委員長 連番10の「企業の社会貢献活動の推進に関する調査研究」が今年度の重点施策に上がっておりますが、ご意見をお願いします。

委員 企業は、社会貢献の精神は持っていると思うが、どういう所に参加すればよいのかわからない。住民だけではなく、地元企業への呼びかけも大事ではないかと。

委員 企業の自治会加入参加を促すことも大事なのではないか。呼びかけをすれば賛同する企業は多くいると思う。企業がどういう事ができるのか調査研究する必要はあるのではないかと。

委員長 それでは連番10の「企業の社会貢献活動の推進に関する調査研究」は重点項目とします。連番12の「協働の人材バンクの設立」はどうですか。

委員 繁多川自治会のスグリムン認定とか。自治会単位ぐらいだとやりやすい。

委員 市内の自治会では、正式に人材バンクとはしていないが、自治会長が市民の得意技を把握している。自治会単位ごとの方が上手くいくのではないか。システムとして作るとうまくいかない。

委員長 それでは、連番 12 の「協働の人材バンクの設立」については、重点からはずします。

委員 連番16の「各種助成金情報の提供」は重点項目に挙げられていないが、市民全員が使えるような助成金があれば、自治会の会員、非会員に関わらず何か活用する事ができるのではないか。

委員長 それでは、連番 16 の「各種助成金情報の提供」については、先ほど委員よりご意見がありましたので、そのまま重点施策としたいと思います。
連番 17 の「寄付や税制優遇制度に関する情報提供や意識啓発」はどうでしょうか。

委員 重点にはしなくても良いと思います。資金循環の話仕組みについて考えていくほうが良いのではないかと提言です。今は重点でなくても良いと思うが、次回の実施計画策定時は考える必要があるのではないかと思います。

委員長 連番 17 の「寄付や税制優遇制度に関する情報提供や意識啓発」に関しては重点施策からはずします。
次に連番 18 の「地域における活動の拠点（場づくり）」はどうでしょうか。

委員 自治会に入っていないけど、コミュニティを求めるといのはあると思う。必ず自治会にこだわらないでも新しいコミュニティというのができるのではないか。
入りやすい所から入っていけば広がっていくのかなと思う。

委員 今後、防災の避難所などに繋がるので、拠点となる場所は重要ではないでしょうか。

委員 重点としたときに何ができるかということも考えないといけない。

委員 積極的にその場を作っていくということを推進する必要があると思う。
学校の場合、地域連携室が機能していないようだ。活動する上でなんらかの場所は必要になってくる。

委員長 連番 18 の「地域における活動の拠点（場づくり）」については、先ほど委員よりご意見がありましたので、そのまま重点施策としたいと思います。

それでは、重点項目に変わったのが、

- 連番 10 の「企業の社会貢献活動等の推進に関する調査・研究」、
- 連番 16 の「各種助成金情報の提供」、
- 連番 18 の「地域における活動の拠点（場づくり）」となります。

ここまで整理したところで、意見集約はここら辺で良いでしょうか。

事務局 これで意見集約が図れたと考えております。次回取りまとめて委員の皆さまへ諮りたいと考えております。

委員 「情報収集発信」、「中間支援機能の研究」、「コミュニティ支援」、このキーワードのタイトル・項目を付けてほしい。

重点施策と事業を繋いでいくキーワードだと思う。それをうまく名称をつけてほしい。

意見として、2 年後の実施計画を作るときに、29 ある施策の表現が細かすぎるので、もう少し大きく括ってもいいのではないかと。施策が多すぎるので、次回、圧縮した方が良いのではないかと。次の段階ではぜひそうしてほしい。

委員長 5 年間の施策でやる、土台づくりみたいなものはありませんでしたか。

委員 最終的に協働のまちってどういうことなのか。どこに向かっているのかというのが欲しい。細かいところばかり見せられても良くわからない。

委員 指針で作ったはずなので、それも表示した方がよいのではないかと。

委員長 ありがとうございます。次回の審議会までに事務局で、取りまとめてください。それでは、そろそろお時間となりましたので、これで審議会を閉会させていただきます。

閉会